

だから私はこの仕事



やまうち たかし
山内隆司さん

(行政書士法人 山内事務所所長
行政書士)

かんたんな届け出でも行政書士に依頼すれば

プラス・アルファがあることを伝えたい。

資格が仕事のあと押しをしてれています。

——この仕事をめざしたのはいつごろでしたか

山内 私は、学校を出るとすぐにサラリーマンにな

りまして、働き出してから何年か経って、父の行政書士事務所でアルバイトをすることになりました。すると、サラリーマン時代には毎日が同じことの繰り返しでしたが、ここでは毎日することが違って新

鮮に感じたのです。こんな変化に富んでおもしろい仕事なら、めざしてみようかと思ったのが行政書士になるきっかけです。

——それで、行政書士試験を受験したのですか

山内 はい。でも、なかなか受からなくて、その間はずっと父のもとで手伝いをしながら受験に備えていました。それから、ようやく受験に成功して資格を取ることができました。もちろん、資格を取ってすぐのころは、右も左も分からない状態でした。そんな時、父の事務所で手伝いをした経験を生かすことができました。言ってみれば研修期間だったようなものです。いま思えば、行政書士試験になかなか合格しなかったのが逆によかったのかも知れません。

——いまは、資格をとって何年目ですか

山内 約1年半になります。

——仕事の上で、どのような変化を感じられますか
山内 資格を取って、すぐに仕事を始めた人たちよりも、先ほども言いましたが、「山内事務所」で

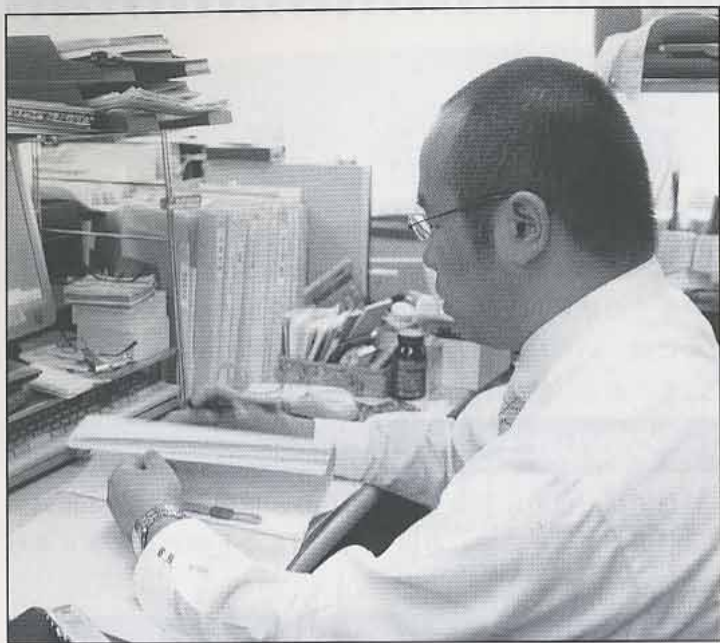
手伝ったことによって、行政書士の世界にスムーズに入っていくことができました。資格は、やはり仕事のあと押しをしてれていますし、積極的に仕事に取り組む気持ちにもさせてくれます。

——お客との仕事のやり取りにも変化が出ましたか
山内 この書類をつくっておいてという、単にまかせられる状態から、「この許可をもらうことが利益につながりますよ」という風に、たとえばお客である社長と相談しながら仕事を進めていくことができるようになりました。とにかく、申請するだけなら、誰にでもできることです。時間があれば、本人がやればいいことです。そこに、行政書士に依頼すればいかにプラス・アルファがあるかを理解してもらおうことが大切なのです。

情報収集で経験の浅さを補っています。

——行政書士の仕事は、人と接することがほとんどですが、苦になるようなことはありませんか

山内 私は人に会うのが好きだったので、人と会っ



お客にできるだけ多く会って気軽に相談にのりながら仕事を広げていくことがとめられています。そのためには、早い時間に書類作成を終えて、お客との打ち合わせに出かけるといことも大切です。

て話を進めるのは抵抗なく入っていけました。

——多くの社会経験を積んだお客を相手にするわけですが、その点はどうか

山内 六法全書を一生懸命になって勉強して、法律についてお客にただ伝えるだけでは行政書士の仕事を理解してもらえないでしょう。日常生活で使われることばで伝えていくことが大切なのです。

——この業界にはベテランの方が多いと思いますすが、若いということになることはありますか

山内 父がこの仕事に就いたばかりのころ、10年やっている先輩を目標にして仕事を覚え、3年で迫ったそうです。

——お客も、とうぜん人生経験のゆたかな人が多いのでしょうか

山内 お客のもっている社会経験とのギャップを補うためには、仕事をしながら、いろいろな業種の経営者の方にお会いして、その方がどのような目的でその事業をやっているのかを聞いて、情報を増やしていくようにしています。また、友人の中にも、い

ろいろな業種の人がありますから、その会社がどのように成長したかといった情報を収集して、今後の仕事につなげていく努力もしています。会社を設立して、これから大きく成長していこうという企業の社長と仕事の話をする時など、何を目標にどうしたらいいのか、どのような許認可を取ることが利益につながるのか、的確にアドバイスすることもできるのです。

——情報の収集は行政書士の仕事に欠かせませんね

山内 経験豊富な先輩の方にお客の信頼は寄せられがちですが、私たち若い者は、情報収集で経験を補っています。そのおかげで、お客から「若いのにくわしいね」などと感心してもらうことが信頼につながっているのです。

父と二人で両輪になって事務所を運営したい。

——仕事を早朝から始めることもあるとかお聞きしましたが

山内 事務所にいるだけが仕事のすべてではなく、

——行政の窓口というと、一般には取りつきにくいイメージがありますが

山内 お客が直接いくと、窓口で許認可が△になってしまうことでも、私たち行政書士が出向くと○になることはあるんです。そこには、書類の書き方、提出の仕方があって、何度も同じ窓口に出向いていると、許認可を○にするためのちょっとしたヒントをもらえることもあるのです。また、大企業などには、私たちよりもっと法律に詳しい人がいます。でも、知識は持っていても届け出をしたことがない。そこが、行政書士との大きな差となる訳です。

——これからの抱負をお願いします

山内 行政書士は、個人でやっている方が多いのですが、平成16年8月に行政書士法人山内事務所を設立したので、父と私とふたりで事務所の評価を受けます。私も行政書士のプロとして認められつつありますので、これからも私たちはふたりで車の両輪のように、お客に接していきたいと考えています。